

日本機能水学会第 19 回学術大会 大会長あいさつ

テーマ： 新時代を拓く機能水

大会長 今田 千秋 （東京海洋大学学術研究院教授）

本学術大会は昨年、東京海洋大学品川キャンパスで開催する予定でしたが、コロナ禍のために本学では学外者の入校禁止措置が講じられたことにより延期を余儀なくされました。本年度もこの措置が続いているために機能水学会理事会で協議の結果、会場を日本薬学会長井記念ホールに変更して10月末に開催することになりました。開催延期と会場変更についてここに深くお詫び申し上げます。そして同時に、このような中で大会長を務めることになった奇縁を感じています。

コロナ禍により、東京オリンピック 2020 の延期をはじめとして各種の社会的活動がネガティブな影響を受け、世の中は新型コロナウイルス対策一辺倒の様相を呈しています。そうした中で行われたNITE（独立行政法人製品評価技術基盤機構）による評価において次亜塩素酸水が新型コロナウイルス不活化に対する有効性が認められ、一気に全国的に使用が広がりました。しかしながら、NITEの発表は問題点をいくつか含んでおり、次亜塩素酸水に関して誤解と混乱を世の中にもたらしました。そこで、機能水学会では新型コロナウイルス感染症や次亜塩素酸水に関する正しい知識を学び、整理し、提言を発信することを目的として、ウォーター研究会セミナーや「機能水が拓く“with corona”の日常と明日」というテーマで機能水シンポジウム 2020 を開催しました。次亜塩素酸水の社会的クローズアップ状況はその後も続いており、関係の方々がいちいち課題に取り組んでおられることは皆さまご存知の通りです。

さて、本学術大会では本来、各種の機能水に関する研究や活用事例の発表あるいは標準化についての議論が会員はじめ国内外からの参加者によって展開されてきました。私自身は、本学会活動の経験も浅く、機能水の研究も海洋深層水の活用に限られていますが、「新時代を拓く機能水」を大会テーマとして大会長を務めさせていただくことになりました。これは、ウイズコロナの時代にあってポストコロナの時代も見据える意味合いを含んでいます。こうしたことを踏まえて、プログラム委員会（岩澤篤郎委員長）において、下記のような事柄を考慮し、一般演題の申込みも含めたセッション・プログラム編成をお願いしています。最終プログラムが決まり次第（9月上旬）アナウンスいたします。

機能水関連団体等の活動と展望、 研究分野（食品衛生、理化学・技術、口腔等）、
各種機能水（調整海洋深層水、次亜塩素酸水、オゾン水、アルカリイオン水ほか）
特別講演・教育講演（海洋深層水関連、SDGs 関連、食品衛生関連、水素水関連ほか）

本学会の特長は、一堂に会して様々な機能水分野の研究発表を拝聴したり、討論に参加したりできることですが、今回はリアル（会場参集）とWEBによるハイブリッド開催となります。会場では、検温、手指消毒、マスク着用、3密回避、隣間距離確保、換気といった感染予防対策を講じます。

コロナ禍のため窮屈な感じは否めませんが、多くの方々のご参加をお待ちいたします。

令和3年7月吉日